

大学生の室内環境整備の実態と意識

黒光 貴峰* 徳重 礼美** 新馬場 有希**

(2010年10月26日 受理)

A Survey of Domestic Conditions and Awareness among University Students.

KUROMITSU Takamine, TOKUSHIGE Hiromi, SHINBABA Yuki

要約

【目的】本研究は、大学生の室内環境整備の実態と意識、および学校教育での教育の実態を明らかにすることを目的としている。

【方法】研究方法は、質問紙調査であり調査対象者は、鹿児島県の大学に在籍している大学生268人（男性：83人31.0%、女性185人69.0%）、調査期間は、平成21年10月～11月である。

【結果】自分の部屋の置かれている室内環境については、広さに関しては把握している者がほとんどであったが、窓の位置については分からない者が2割もみられた。環境整備実態について、換気は、夏季ではほとんど毎日行っている者が8割近くみられるが、冬季では5割に減少する。台所、お風呂（バスタブ）の清掃回数は、「毎日」、床・洗面所・トイレ（便器・床）の清掃回数は「週に数回」、玄関・庭・お風呂（床・壁）の清掃回数は「月に数回」、家具・照明・窓ガラスの清掃回数は「年に数回」が最も多かった。環境整備者について、生活形態が実家暮らしの者は、全ての項目において、主たる環境整備者は母親であった。自分の住まいに対しては、7割以上の者が満足していると回答していた。清掃する理由では、「清潔は気持ちが良いため」、「訪問者の目を意識」が多くあげられていた。掃除方法の指導では、母親から教わった者が7割以上みられ、教わったことがない者も1割以上みられた。住居領域の学習経験については8割以上の者が経験有りと回答していたが、掃除方法などを教えてもらった者について、「小・中・高校の先生」を挙げた者は半数以下であった。

Keywords：大学生・室内環境・環境整備・実態・意識・学校教育

* 鹿児島大学教育学部 准教授

** 鹿児島大学大学院教育学研究科 大学院生

I. はじめに

日本の住まいの寿命は、諸外国に比べると短い。例えば、1996年の国土交通省の発表では、戸建て住宅の建て替えまでの期間は、日本26年、アメリカ44年、イギリス75年となっている¹⁾。また、既存住宅総数を年間新設住宅戸数で割って求めた更新周期の指標でみると、日本30年、アメリカ103年、イギリス141年、フランス86年、ドイツ79年である^{註1)}。日本の更新周期が他の国々より短い理由としては、日本の除去住宅の大半が1960年から70年代の高度経済成長期に建てられたものであり、その時に深刻な欠陥住宅問題も表面化したためであるが、住まいを維持管理する意識が住み手に希薄であったことも考えられる²⁾。住まいの耐用年数を上げるためには、丈夫な建物を建設するだけでなく、住み手の住居管理への意識を高め、日常的に室内環境を整備することが重要である。また、室内環境の整備は心身の健康とも関係している。室内環境の悪化は、アレルギーや喘息の病態を引き起こすため、環境整備が健康に大きな影響を与えることが明らかにされている³⁾⁴⁾。

日本人の室内環境の整備実態をみると、一般家庭の実態については、宮崎⁵⁾、松崎ら⁶⁾が清掃に関する意識や行動、各空間の整備状況について、大学生への調査としては、佐藤ら⁷⁾⁸⁾が室内環境の実態と整備行動について報告を行っている。住居管理への意識については、山崎、町田ら⁹⁾が、小学生を持つ親の意識から、佐藤ら¹⁰⁾が、地域の健康教育活動に従事している保健婦の意識から、住居管理に対する教育の必要性を報告している。上記のような報告は、1990年代にいくつも行われているが、近年では行われていない。また、住居管理に対する教育の必要性に関しては、家庭および地域の立場からの報告は行われているが、学校教育の立場からの報告はほとんど行われていない。

そこで、本研究では、今後、自立して生活する大学生を対象に、室内環境整備の実態と意識、および学校教育での教育の実態を明らかにすることを目的としている。

II. 研究方法

研究方法は、質問紙調査であり、調査対象者は、鹿児島県の大学に在籍している大学1年生～4年生の男女268人、調査期間は、平成21年10月～11月である。調査対象者の概要は表の通りである(表1)。調査内容は、①自分の部屋の室内環境と整備実態、②環境整備者、③掃除道具の所有・使用状況、④住まいへの満足度、⑤清掃感の自己評価、⑥清掃に対する意識、⑦室内環境整備等の技術の習得、⑧学校教育における学習経験についてである。

III. 結果

1. 自分の部屋(個人の部屋がない場合は居間)の室内環境と整備実態

(1) 室内環境

自分の部屋の室内環境について、広さ、窓の位置、日当たり、床材、室温調節について回答を

得た (表2)。

表1. 調査対象者の概要

調査項目 (調査対象者 268人)	%
性別	
男性	31.0
女性	69.0
世帯構成	
一人暮らし	24.3
親と子の2世代世帯	59.3
祖父母と親と子の3世代世帯	11.6
その他	4.9
兄弟・姉妹	
一人っ子	4.1
複数兄弟の一番上	40.7
複数兄弟の真ん中	20.4
複数兄弟の末っ子	34.8
生活形態	
一人暮らし	39.1
実家暮らし	56.1
寮	1.1
その他	3.7
住居形態	
戸建て	55.2
集合住宅	42.9
その他	1.9
所有形態	
自分の家 (分譲マンションを含む)	51.7
公団・公営・公社の賃貸住宅	4.1
民間の賃貸住宅	42.4
勤め先の給与住宅	1.1
その他	0.7
住宅建築年数 (住宅居住年数)	
10年未満	31.4 (55.7)
10～29年未満	49.1 (33.9)
30～49年未満	7.0 (3.0)
50年以上	1.5 (0.7)
わからない	11.1 (6.6)

表2. 自分の部屋の置かれている室内環境

調査項目 (合計: 268人)	% (夏季/冬季)	
広さ		
6畳以下	32.8	
8畳以下	46.9	
12畳未満	16.6	
12畳以上	3.7	
窓の位置		
南側	33.5	
それ以外	58.7	
わからない	23.0	
日当たり		
よい	48.7	
悪い	17.0	
ふつう	34.3	
床材	夏季	冬季
畳	14.3	9.4
畳に絨毯	4.1	8.7
板張り	56.4	32.5
板張りに絨毯	20.7	46.4
その他	4.5	3.0
室温調節 (複数回答あり)	夏季	
エアコン	71.6	
扇風機	59.8	
その他	3.7	
使用しない	4.4	
室温調節 (複数回答あり)	冬季	
ストーブ (石油)	11.6	
ストーブ (ガス)	1.5	
ストーブ (電気)	23.2	
こたつ	27.7	
エアコン	44.6	
FF石油暖房機	1.1	
電気カーペット	15.7	
使用しない	11.6	
その他	4.9	

広さは、「8畳以下」46.9%が最も高く、次いで、「6畳以下」32.8%、「12畳未満」16.6%、「12畳以上」3.7%であった。窓の位置は、「南側以外」58.7%、「南側」33.5%、「わからない」23.0%であった。日当たりは、「よい」48.7%、「悪い」17.0%、「ふつう」34.3%であった。床材は、夏季では、「板張り」56.4%が、冬季では、「板張りに絨毯」46.4%が最も高かった。室温調節は、夏季・冬季とも、「エアコン」71.6%・44.6%の使用が最も高かった。

(2) 整備実態

環境整備実態 (自分の部屋) について、換気回数 (夏季・冬季)、床・家具・照明機器・窓ガラスの清掃回数、大掃除の回数について回答を得た (表3)。換気回数については、夏季・冬季では「ほとんど毎日」78.0%・50.0%、「週に数回」14.2%・35.1%、「月に数回」4.5%・8.6%、「年に数回」1.5%・1.9%、「まったくしない」0.4%・1.9%であった。性別で見ると男女とも夏季では「ほとんど毎日」が7割を超え、冬季でも半数の者はほとんど毎日換気を行っていた。床の

清掃回数は、「ほとんど毎日」7.1%、「週に数回」43.7%、「月に数回」37.7%、「年に数回」9.3%、「まったくしない」0.7%であった。性別でみると、男性は「月に数回」41.0%、女性は「週に数回」49.7%が最も多かった ($P<0.01$)。家具・照明の清掃回数は、「ほとんど毎日」0.0%、「週に数回」2.6%、「月に数回」32.2%、「年に数回」53.6%、「まったくしない」9.4%であった。性別でみると、男女ともに「年に数回」56.1%・52.4%が最も多かった。窓ガラスの清掃回数は、「ほとんど毎日」

表3. 環境整備実態 (自分の部屋)

	全体 268人	男性 (83人)	女性 (185人)
換気回数 (夏季)			
ほとんど毎日	78.0	71.1	81.1
「週」に数回	14.2	19.3	11.9
「月」に数回	4.5	8.4	2.7
「年」に数回	1.5	1.2	1.6
まったくしない	0.4	0.0	0.5
わからない	1.5	0.0	2.2
換気回数 (冬季)			
ほとんど毎日	50.0	54.2	48.1
「週」に数回	35.1	27.7	38.4
「月」に数回	8.6	10.8	7.6
「年」に数回	1.9	1.2	2.2
まったくしない	1.9	3.6	1.1
わからない	2.6	2.4	2.7
床の清掃回数 **			
ほとんど毎日	7.1	8.4	6.5
「週」に数回	43.7	30.1	49.7
「月」に数回	37.7	41.0	36.2
「年」に数回	9.3	16.9	5.9
まったくしない	0.7	2.4	0.0
わからない	1.5	1.2	1.6
家具・照明の清掃回数			
ほとんど毎日	0.0	0.0	0.0
「週」に数回	2.6	3.7	2.2
「月」に数回	32.2	26.8	34.6
「年」に数回	53.6	56.1	52.4
まったくしない	9.4	12.2	8.1
わからない	2.2	1.2	2.7
窓ガラスの清掃回数			
ほとんど毎日	0.4	1.2	0.0
「週」に数回	0.7	1.2	0.5
「月」に数回	11.9	9.6	13.0
「年」に数回	67.5	62.7	69.7
まったくしない	16.8	22.9	14.1
わからない	2.6	2.4	2.7
大掃除の回数			
ほとんど毎日	0.0	0.0	0.0
「週」に数回	0.4	0.0	0.5
「月」に数回	4.9	7.2	3.8
「年」に数回	87.6	83.1	89.7
まったくしない	4.5	7.2	3.3
わからない	2.6	2.4	2.7

表4. 環境整備状況

	全体 268人	男性 (83人)	女性 (185人)
台所の清掃回数			
ほとんど毎日	35.8	28.9	38.9
「週」に数回	35.4	37.3	34.6
「月」に数回	20.5	21.7	20.0
「年」に数回	3.0	4.8	2.2
まったくしない	0.7	1.2	0.5
わからない	4.5	6.0	3.8
玄関の清掃回数 *			
ほとんど毎日	10.4	10.8	10.3
「週」に数回	34.3	27.7	37.3
「月」に数回	39.2	34.9	41.1
「年」に数回	10.1	15.7	7.6
まったくしない	0.7	2.4	0.0
わからない	5.2	8.4	3.8
庭の清掃回数			
ほとんど毎日	6.9	6.7	7.1
「週」に数回	21.6	20.0	22.4
「月」に数回	35.9	36.0	35.9
「年」に数回	11.8	10.7	12.4
まったくしない	9.0	9.3	8.8
わからない	14.7	17.3	13.5
洗面所の清掃回数			
ほとんど毎日	12.4	12.0	12.5
「週」に数回	38.6	30.1	42.4
「月」に数回	35.6	34.9	35.9
「年」に数回	6.7	10.8	4.9
まったくしない	1.5	2.4	1.1
わからない	5.2	9.6	3.3
お風呂 (バスタブ) の清掃回数 ***			
ほとんど毎日	52.4	47.0	54.9
「週」に数回	22.5	14.5	26.1
「月」に数回	16.1	24.1	12.5
「年」に数回	4.5	4.8	4.3
まったくしない	0.7	0.0	1.1
わからない	3.7	9.6	1.1
お風呂 (床・壁) の清掃回数			
ほとんど毎日	17.9	18.1	17.8
「週」に数回	26.5	25.3	27.0
「月」に数回	35.8	31.3	37.8
「年」に数回	13.8	14.5	13.5
まったくしない	0.7	0.0	1.1
わからない	5.2	10.8	2.7
トイレ (便器) の清掃回数			
ほとんど毎日	11.6	13.3	10.8
「週」に数回	48.1	43.4	50.3
「月」に数回	31.3	30.1	31.9
「年」に数回	3.7	4.8	3.2
まったくしない	0.7	1.2	0.5
わからない	4.5	7.2	3.2
トイレ (床) の清掃回数 *			
ほとんど毎日	8.6	12.0	7.0
「週」に数回	42.9	42.2	43.2
「月」に数回	37.7	27.7	42.2
「年」に数回	4.5	6.0	3.8
まったくしない	1.1	2.4	0.5
わからない	5.2	9.6	3.2

* $P<0.05$ ** $P<0.01$ *** $P<0.001$

0.4%、「週に数回」0.7%、「月に数回」11.9%、「年に数回」67.5%、「まったくしない」16.8%であった。性別でみると、男女ともに「年に数回」62.7%・69.7%が最も多かった。大掃除の回数は、「ほとんど毎日」0.0%、「週に数回」0.4%、「月に数回」4.9%、「年に数回」87.6%、「まったくしない」4.5%であった。性別でみると、男女ともに「年に数回」83.1%・89.7%が最も多かった。

次に、その他の環境整備実態を聞いた（表4）。台所の清掃回数は「ほとんど毎日」35.8%、「週に数回」35.4%、「月に数回」20.5%、「年に数回」3.0%、「まったくしない」0.7%、「わからない」4.5%であった。性別でみると、男性は「週に数回」37.3%、女性は「ほとんど毎日」38.9%が最も多かった。玄関の清掃回数は、「ほとんど毎日」10.4%、「週に数回」34.3%、「月に数回」39.2%、「年に数回」10.1%、「まったくしない」0.7%、「わからない」5.2%であった。性別でみると、男性、女性ともに「月に数回」34.9%・41.1%が最も多かった（ $P<0.05$ ）。庭の清掃回数は、「ほとんど毎日」6.9%、「週に数回」21.6%、「月に数回」35.9%、「年に数回」11.8%、「まったくしない」9.0%、「わからない」14.7%であった。性別でみると、男女ともに「月に数回」36.0%・35.9%が最も多かった。洗面所の清掃回数は、「ほとんど毎日」12.4%、「週に数回」38.6%、「月に数回」35.6%、「年に数回」6.7%、「まったくしない」1.5%、「わからない」5.2%であった。性別でみると、男性は「月に数回」34.9%、女性は「週に数回」42.4%が最も多かった。お風呂（バスタブ）の清掃回数は、「ほとんど毎日」52.4%、「週に数回」22.5%、「月に数回」16.1%、「年に数回」4.5%、「まったくしない」0.7%、「わからない」3.7%であった。性別でみると、男女とも「ほとんど毎日」47.0%・54.9%が最も多かった（ $P<0.001$ ）。お風呂（床・壁）の清掃回数は、「ほとんど毎日」17.9%、「週に数回」26.5%、「月に数回」35.8%、「年に数回」13.8%、「まったくしない」0.7%、「わからない」5.2%であった。性別でみると、男女とも「月に数回」31.3%・37.8%が最も多かった。トイレ（便器）の清掃回数は、「ほとんど毎日」11.6%、「週に数回」48.1%、「月に数回」31.3%、「年に数回」3.7%、「まったくしない」0.7%、「わからない」4.5%であった。性別でみると、男女とも「週に数回」43.4%・50.3%が最も多かった。トイレ（床）の清掃回数は、「ほとんど毎日」8.6%、「週に数回」42.9%、「月に数回」37.7%、「年に数回」4.5%、「まったくしない」1.1%、「わからない」5.2%であった。性別でみると、男女とも「週に数回」42.2%・43.2%が最も多かった（ $P<0.05$ ）。

表5. 住まいの環境整備者（実家暮らし：152人）

(3) 環境整備者

生活形態が実家暮らしの者（152人）に、主に住まいの環境整備は誰が行うか、「祖父母」、「父親」、「母親」、「自分」、「兄弟・姉妹」、「家族全員」の6つの選択肢を設けて回答を得た

	祖父母	父親	母親	自分	兄弟姉妹	家族全員
台所	3.4	2.0	87.2	4.7	0.7	2.0
玄関	6.0	2.0	77.2	4.7	4.0	6.0
庭	9.4	29.5	51.8	2.9	0.0	6.5
洗面所	2.7	8.7	70.7	10.0	0.0	8.0
お風呂（バスタブ）	2.8	9.7	41.4	19.3	11.7	15.2
お風呂（床・壁）	2.7	16.2	57.4	11.5	4.7	7.4
トイレ（便器）	2.7	3.3	84.0	4.0	0.7	5.3
トイレ（床）	3.3	1.3	86.2	4.6	1.3	3.3
ベランダ	1.4	9.4	71.7	9.4	0.0	8.0

(表5)。その結果、「庭」や「お風呂」については、母親以外の者も多少行っていたが、主たる整備者は母親であった。

(4) 掃除道具等の所有状況

掃除道具の所有について、「掃除機」、「ぞうきん」、「粘着カーペットクリーナー」、「乾式モップ」、「ほうき」、「湿式モップ」、「その他」という7つの選択肢を設け複数回答で回答を得た(図1)。その結果、所有については、「掃除機」91.5%、「雑巾」73.1%、「粘着カーペットクリーナー」70.8%、「乾式モップ」58.3%、「ほうき」39.9%、「湿式モップ」15.5%であった。一方、よく使用する掃除道具について、同じ選択肢で複数回答を得た。その結果、使用については、「掃除機」76.3%、「粘着カーペットクリーナー」54.1%、「乾式モップ」38.5%、「ぞうきん」26.3%、「ほうき」10.0%、「湿式モップ」5.2%であった。「ほうき」、「ぞうきん」については、所有している者は7割程度いるものの、使用している者はほとんどみられなかった。

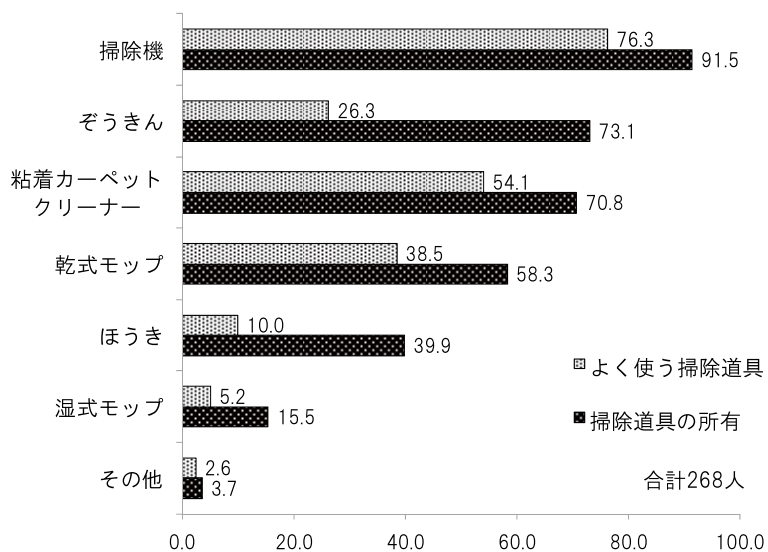


図1. 掃除道具の所有と使用

2. 室内環境整備の意識

(1) 自分の住まいへの満足度

自分の住まいの満足度について、「大変満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「あまり満足していない」、「まったく満足していない」の5つの選択肢を設け回答を得た。その結果、「大変満足している」22.0%、「どちらかといえば満足している」55.2%、「どちらともいえない」7.1%、「あまり満足していない」13.4%、「まったく満足していない」2.2%であった(図2)。自分の住まいに対しては、7割以上の者が満足していると回答していた。

生活形態別でみると、一人暮らしは、「大変満足している」19.8%、「どちらかといえば満足している」60.4%、「どちらともいえない」5.7%、実家暮らしは、「大変満足している」23.7%、「どちらかといえば満足している」51.3%、「どちらともいえない」7.9%、寮は、「大変満足している」33.3%、「どちらかといえば満足している」0.0%、「どちらともいえない」66.7%であった（図3）。

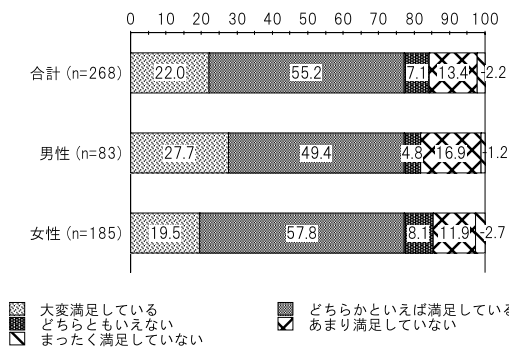


図2. 自分の住まいの満足度

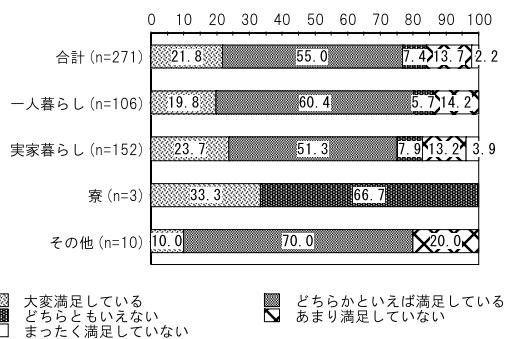


図3. 住まいの満足度と生活形態

(2) 清掃感の自己評価

清潔に対する感覚について、「大変きれい好きである」、「きれい好きである」、「どちらともいえない」、「あまりきれい好きでない」、「まったくきれい好きでない」の6つの選択肢を設け回答を得た。その結果、「大変きれい好きである」4.5%、「きれい好きである」34.3%、「どちらともいえない」36.6%、「あまりきれい好きでない」20.9%、「まったくきれい好きでない」3.7%であった（図4）。性別で見ると男性のほうがきれい好きであると回答した者の割合が高く、清潔感の自己評価が高かった。

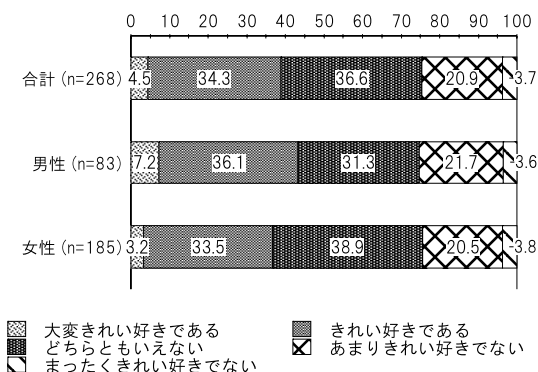


図4. 清潔感の自己評価

また、自分の住まいにおいて、住居管理（掃除等）を行っているか、「小学校」、「中学校・高校」、「現在」の3段階に分け、「よく行っている」、「どちらかといえば行っている」、「どちらと

もいえない」、「あまり行っていない」、「まったく行っていない」の5つの選択肢を設け回答を得た(図5)。その結果、「よく行っている」小学校12.9%・中学校・高校11.8%・現在18.8%、「どちらかといえば行っている」小学校21.4%・中学校・高校32.1%・現在41.3%、「どちらともいえない」小学校18.8%・中学校・高校21.0%・現在17.7%、「あまり行っていない」小学校35.8%・中学校・高校27.3%・現在17.0%、「まったく行っていない」小学校11.1%・中学校・高校7.7%・現在5.2%であった。

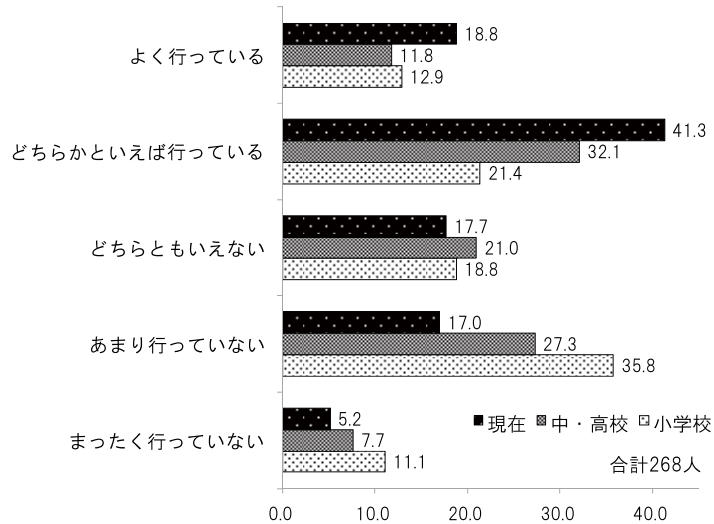


図5. 環境整備の自己評価

現在の環境整備の自己評価と自分の住まいの満足度の関係を見ると、現在、住居管理をよく行っているほうだと回答した者は、「大変満足している」25.4%、「どちらかといえば満足している」20.1%、「どちらともいえない」15.0%、「あまり満足していない」8.1%、「まったく満足していない」0.0%であった(図6)。

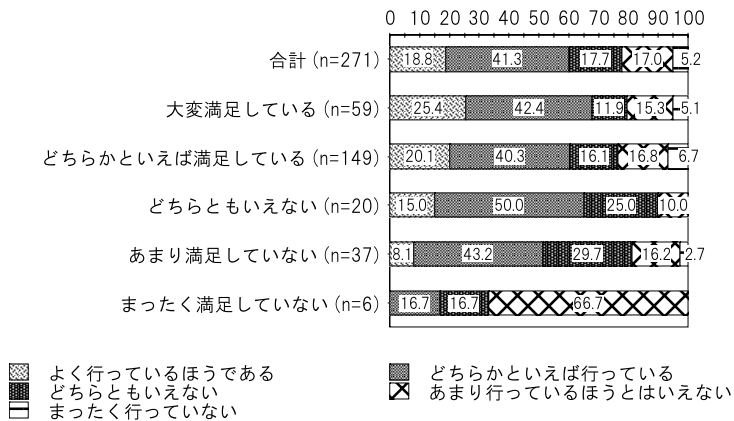


図6. 現在の環境整備の自己評価と住まいの満足度

(3) 清掃に対する意識（清掃する理由）

清掃する理由については、「日常の習慣として」、「健康な生活のため」、「清潔は気持ちが良いため」、「訪問者の目を意識」、「健康上仕方なく」、「火山灰の処理のため」、「汚れが目立つため」、「その他」の8つの選択肢を設け複数回答で回答を得た（図7）。その結果、「清潔は気持ちが良いため」64.6%が最も多く、次いで、「訪問者の目を意識」50.2%、「汚れが目立つため」43.9%、「健康な生活のため」32.1%、「火山灰の処理のため」24.7%、「日常の習慣として」21.0%、「健康上仕方なく」7.0%、「その他」1.8%であった。「その他」の回答としては、気分を高めるため、気分転換などが挙げられた。

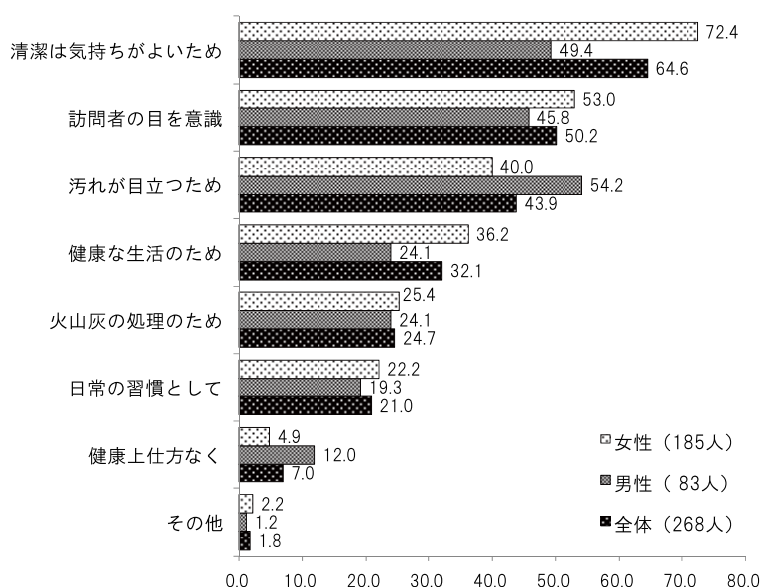


図7. 清掃する理由

(4) 室内環境整備などの技術の習得

① 掃除方法などを教えてもらった者について

掃除方法を誰から教えてもらったのか、「父」、「母」、「祖父」、「祖母」、「兄弟・姉妹」、「小学校の先生」、「中学校の先生」、「高校の先生」、「教わったことはない」、「地域住民」、「その他」の11の選択肢を設け複数回答で回答を得た（図8）。その結果、「母親」78.6%が最も多く、次いで、「小学校の先生」37.6%、「父親」24.0%、「祖母」15.9%、「教わったことはない」14.8%、「中学校の先生」11.8%、「兄弟・姉妹」7.0%、「高校の先生」5.5%、「その他」4.1%、「祖父」4.1%、「地域住民」0.7%であった。「その他」の回答としては、親戚、アルバイト経験、寮での習慣、テレビ、本、雑誌などが挙げられた。

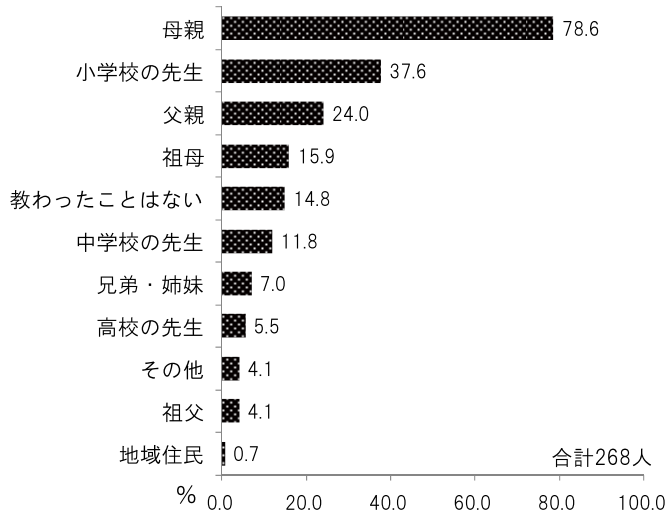


図8. 掃除方法を誰に教わったか

② 学校教育における学習経験

住居領域の学習経験について、小・中・高等学校の家庭科における住居領域の学習の有無を聞いたところ、「はい」86.1%、「いいえ」13.9%であった。住居領域の学習経験と現在の環境整備の自己評価をみると、「よく行っている」住居経験あり19.5%・なし15.8%、「どちらかといえば行っている」あり42.9%・なし34.2%、「どちらともいえない」あり16.9%・なし18.4%、「あまり行っていない」あり16.9%・なし18.4%、「まったく行っていない」あり3.9%・なし13.2%であった(図9)。

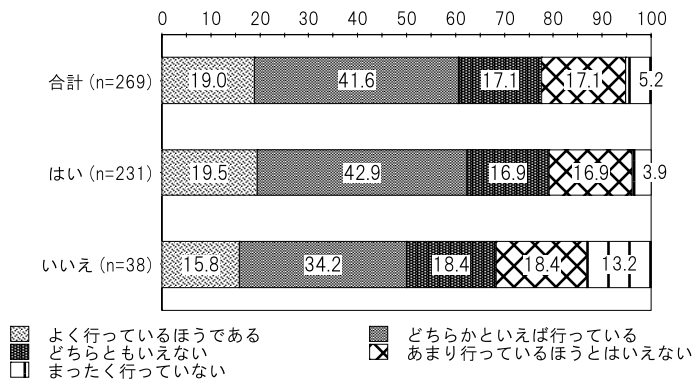


図9. 住居領域の学習経験と現在の環境整備の自己評価

IV. 考察

自分の部屋の室内環境について、広さに関しては把握している者がほとんどであったが、窓の位置に関しては室内環境に関係する重要な要素であるが、把握していない者が2割もみられた。床材では、冬季では「板張りに絨毯」と回答する者が多く、エアコンやストーブなどの機器の利用以外での室温調節に絨毯が用いられていた。絨毯が寒暖の調節に利用されるのは有効な方法であるが、絨毯には塵や埃がたまりやすく除去しにくいことから、十分な環境整備が必要である。

環境整備実態について、換気は、夏季ではほとんど毎日行っている者が8割近くみられるが、冬季になると5割までに減少する。冬季は、室温調節のために利用されるストーブやFF石油暖房機器等により空気が汚れやすくなるため夏季よりも環境整備に注意する必要がある。また、その他の場所の環境整備実態として、台所、お風呂（バスタブ）の清掃回数は、「毎日」、床・洗面所・トイレ（便器・床）の清掃回数は、「週に数回」、玄関・庭・お風呂（床・壁）の清掃回数は、「月に数回」、家具・照明・窓ガラスの清掃回数は、「年に数回」との回答が最も多かった。家具・照明については、埃がつきやすく舞い上がりやすいため、また、窓ガラスについては、汚れていることで明るさにも影響を及ぼすため、本来はこまめな環境整備が必要である。

環境整備者について、生活形態が実家暮らしの者（152人）は、全ての項目において、主たる環境整備者が母親であった。また、自分の住まいの環境整備状況を把握していない者もみられ、住居管理に全く関わっていない、関心がない者もみられた。家族のそれぞれが住居管理について積極的に関わっていくことは、家族の負担を軽減するだけでなく、一人一人の生活を自立したものにすることも重要である。

自分の住まいに対しては、7割以上の者が満足していると回答していた。生活形態別にみると、一人暮らしの者のほうが実家暮らしの者より満足度が高い結果となった。また、環境整備の自己評価と住まいの満足度の関係を見ると、現在、室内環境整備をよく行っている者のほうが満足度は高い結果であった。

清掃する理由では、「清潔は気持ちがいいため」、「汚れが目立つ」、「健康な生活のため」が多く挙げられていた。室内の環境を整備することは、心身の健康を保ち、生活の質を高めることにつながるが、日常の習慣として行っている者は2割程度であり、今後、健康な生活を送るためにも習慣として意識させることが課題である。また、理由として「訪問者の目を意識」という回答も多く見られ、接客型の住意識が表れていた。

掃除方法の指導では、母親から教わった者が7割以上みられ、教わったことがない者も1割以上みられた。住まいの環境整備方法は、場所や材質によって異なる。また、洗剤や洗剤剤は表示された使用方法に従い安全に十分気をつけた上で使用する必要がある。環境整備の実態と意識には個人差がみられ、このような実情から学校教育において正確な知識を習得させることが重要である。住居領域の学習経験については8割以上の者が経験有りと回答していたが、掃除方法などを教えてもらった者について、「小・中・高校の先生」を挙げた者は半数以下であった。

今後、豊かな住生活を送っていくためには、自分の生活環境を把握し、積極的に環境整備に関わっていく必要がある。そのためには、環境整備への意識と知識を高めることが重要であり、家庭科教育の住居領域が果たす役割は大きい。

謝辞

本研究を進めるにあたり、調査にご協力頂きました大学生の皆さまに感謝申し上げます。

注)

注1) 日本1993年、イギリス1991年、フランス1990年、ドイツ1987年のデータから算出したものである。

参考文献

- 1) 国土交通省：平成8年建設白書（1996）
- 2) 日本住宅会議：サステイナブルな住まいー住宅白書2007-2008（2007）
- 3) Ehnert B, Lau-Scadendorf S, Weber A, et al, : Reducing domestic exposure to dust mite allergen reduces bronchial hyperreactivity insensitive children with asthma. *J. Allergy Clin Immunol* 90 : 135-138（1992）
- 4) 宮崎有紀子, 佐藤由美, 大野絢子：室内環境整備に関する基礎研究ー一般家庭の室内塵埃、ダニの季節変動とその除去に関する調査一, *北関東医学* 52, 261-266（2002）
- 5) 宮崎有紀子, 芝山江美子他：室内環境整備に関する基礎研究ー一般家庭の室内清掃、環境保持及び寝具管理などに関する研究一, *高崎健康福祉大学紀要*第7号, 25 - 37（2008）
- 6) 松崎昭夫：共働き家族の住まい方と空間に関する研究その1 掃除の実態と意識に関する調査, *日本建築学会大会学術講演梗概集建築計画II*, 413-414（1996）
- 7) 佐藤有紀子, 後藤優子, 中野正孝他：学生の室内環境整備に関する研究（1）ひとり暮らしの学生の住居環境の実態と環境整備行動について, *千葉大学看護学部紀要*, 1-10（1996）
- 8) 佐藤有紀子, 後藤優子, 中野正孝他：学生の室内環境整備に関する研究（2）ひとり暮らしの学生の寝具の整備状況について, *千葉大学看護学部紀要*, 11-18（1996）
- 9) 山崎古都子, 町田玲子：小学生を持つ親の住意識ー家庭における住教育に関する基礎的研究第1報, *日本建築学会計画系論文報告集*第428号, 147-156, 1991
- 10) 佐藤有紀子, 大野絢子, 中野正孝他：室内環境整備に関する研究I 室内環境整備に対する教育の必要性について, *群馬県立医療短期大学紀要* 17, 1-9（1996）